



# Charitable Trust

## ニュースレター

2022年6月

# 目次

1. 代表挨拶

2. Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く

3. Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催

4. マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会

5. 4つのNGOとその取り組みを紹介

- TI RAYONS SOLEIL
- BONHEUR ASSOCIÉ AUX ENFANTS
- MMCO
- RESPECT





# 代表挨拶

# 代表挨拶



山下 悟郎

いつもお世話になっている皆さま

このたび、「MOLチャリタブルトラスト」（以下、当基金）のニュースレター第2号の発行をむかえました。私たちの新しいコミュニケーション・ツールとしてニュースレター（季刊予定）を創刊して以来、様々なことができました。昨年、当基金が資金提供を決めた26件のプロジェクトのうち、すでに活動を開始したNGO団体もあれば、活動のために必要な認可やツールを準備中のNGOもあります。

私どもとしては一貫して、こうしたNGOに寄り添ってきました。モーリシャスでの取り組み開始以来、何度か申し上げてきたように、当基金は単に資金を提供することが目的ではありません。最前線のNGOの活動を支援し、加速させる力になりたいのです。資金だけを提供して責任を丸ごと引き渡し、あとは手を引くという態度では、真のコミットメントとはいえません、と私は考えています。

そこで、私たちはいくつか新しい取り組みを開始しました。その目的は、プログラムに参加する各NGOが協力し合い、共に発展していく方法を見出すサポートをすることです。対話や議論、知識やアドバイスの伝達を活性化させるプラットフォーム、架け橋を築こうと試みています。

第一回目となるワークショップはポワント・ディズニーにある支援団体「Eco-Sud」の本部で開催され、南東地域で持続可能な農業や、地域密着型農業プロジェクトに携わる団体が集まりました。参加者は農業技術やパーマカルチャー、堆肥の利用、各種農業モデルなどについて、活発に意見を交わしました。種を交換して双方のメリットにつなげようという提案もあり、参加者全員にとって大変有意義な会になったと思います。この経験をもとに、マングローブの保全に携わるNGOを対象とした第二回目のワークショップも開催。40年以上にわたって世界各地でマングローブ林の研究と保全に務めてこられた宮城豊彦教授をお招きしました。

私どもはこの勢いを止めることなく持続させ、支援先と各プロジェクトを後押しする新たな取り組みを展開することで、モーリシャスと現地の人々に、より良く持続可能な成果をもたらすよう努めてまいります。

日頃ご協力いただき、ありがとうございます。引き続き、良いご報告ができればと思います。

**MOLチャリタブルトラスト 代表**

山下 悟郎

Click to navigate

代表挨拶 > Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く > Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催 > マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会 > 4つのNGOとその取り組みを紹介



# Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く



# Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く

「MOLチャリタブルトラスト」の現地運営委員としての役割について、詳しく教えてください。

「MOLチャリタブルトラスト」(当基金)には7人の運営委員があり、そのうち4人が日本人、3人がモーリシャス人です。

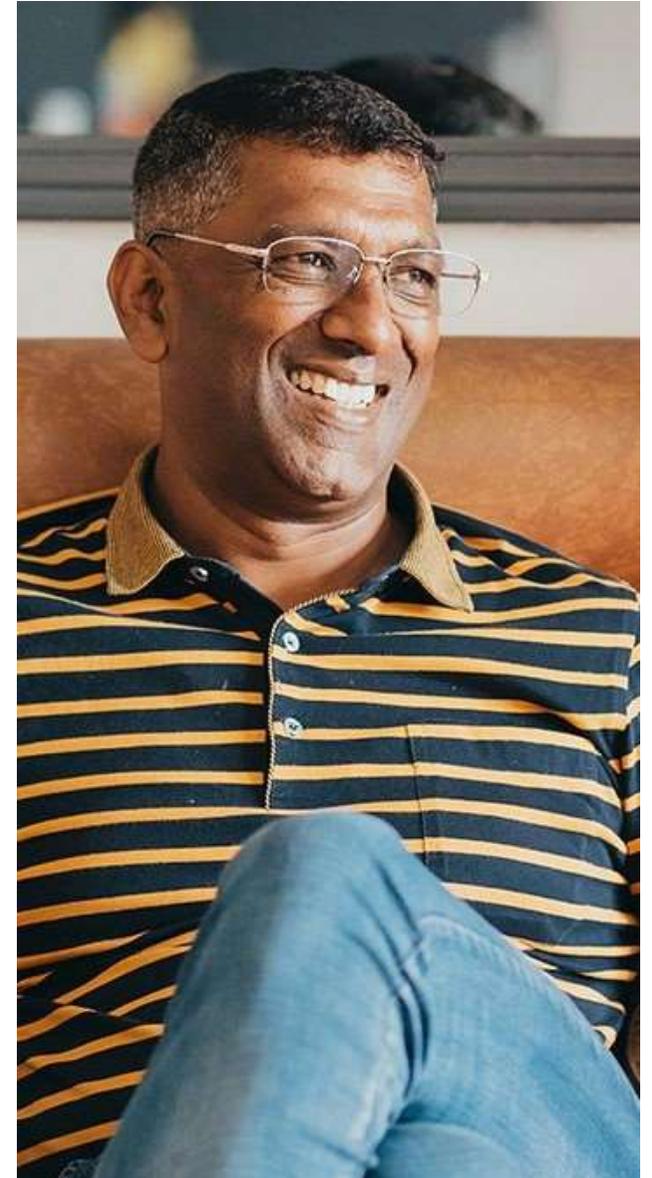
私たちの役割は、当基金のビジョンと親和性の高いプロジェクトを探し出し、その将来的なインパクトや運営元のNGO団体の能力を評価することです。さらに、これらのNGOと直接関わり、技術的なアドバイスや事務管理面のサポートをします。特に強固な基盤ができていない若いNGOに対しては、プロジェクトの進行において健全なガバナンスを保てるよう支援し、正しい方向に進む手助けをしています。私たちは知見を生かすことで、最適な体制の構築を支援するだけにとどまらず、NGOやそのステークホルダー各者との対話を促し、仲介役となって、特定の問題を円滑な解決に導くことができます。

私たちが「I61財団」と協働していることもポイントです。「I61財団」とは、NGOと密に連携しながら、現地で様々なプロジェクトをコーディネートしている組織です。運営委員会の定期ミーティングでは、「I61財団」が現場の課題を報告し、共に解決策を考えています。

支援しているNGOのプロジェクトの進捗については、どのようにお考えですか？

大半のプロジェクトは順調に進んでいます。一部の案件では、登録や事務管理、認可の取得など、こまごまとした課題を抱えています。というのも、支援対象のNGOには、資金の支出に際しても一定の基準が設けられており、例えば、資金を受け取り、管理するための銀行口座を持ち、一定の手続きをとる必要があるのです。

私たちが協力しているNGOの一部は、こうした課題に取り組んでいる最中ですが、他のプロジェクトは2〜3割、5割、事例によっては9割程度完了しています。言い換えれば、プロジェクトは総じて順調で、すべての案件が進行中であるということです。課題に直面しているプロジェクトについては、その障害を取り除き、次の段階に進めるようサポートしています。



Click to navigate

代表挨拶 > [Darmen Ellaya \(ダーメン・エラヤ\)氏に聞く](#) > Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催 > マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会 > 4つのNGOとその取り組みを紹介



## 本基金は、様々なプロジェクトにおいて、NGOとどのように関わっているのでしょうか？

プロジェクトは4つのカテゴリーに分類できます。



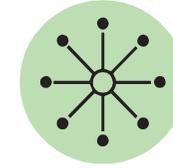
農業環境と生物多様性



社会



教育



その他

関係する27のNGO団体はいずれも、この4つのどれかに当てはまります。私たちはカテゴリー別の「フォーカス・ミーティング」を開いて団体間の対話を促し、協働する機会を増やしています。例えば、苗床のプロジェクトが農業のプロジェクトに苗を提供することもあります。支援先のプロジェクト間には、実に多くの関連性があります。各者が協力し合って成功の可能性を高められるよう、当基金は相乗効果の創出を目指しているのです。



Click to navigate

代表挨拶 > [Darmen Ellaya \(ダーメン・エラヤ\)氏に聞く](#) > Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催 > マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会 > 4つのNGOとその取り組みを紹介



# Eco-Sudの アグロエコロジーセンターで ワークショップを開催



# Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催

食料自給率の向上は、モーリシャスにおける「MOLチャリタブルトラスト」の主な目標のひとつです。この目標を達成するため、当基金は今年、島の南東地域で行われる複数の持続可能な農業プロジェクトに出資しています。3月18日（金）、出資先の一つであるEco-Sudのアグロエコロジーセンター（ヴィルノワール）にて、関係NGOの代表者によるミーティングを開催し、Falcon Citizen Leagueやthe Association for Sustainable Development、FORENA、RESPECTといったNGOにも参加していただきました。

一致団結の名のもとに、参加者は各自のプロジェクトについて説明し、持続可能な農業に関するさまざまな経験を共有。栽培技術や土壌、堆肥、栽培作物、季節など、持続可能な農業の技術・農法について意見交換しました。当基金は、パートナー間の協力の輪を広げることで、各プロジェクトの成功率を高め、南東地域における活気に満ちた健全な農業コミュニティの構築に貢献したいと考えています。



Click to navigate

代表挨拶>Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く> [Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催](#)> マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会  
> 4つのNGOとその取り組みを紹介





# マングローブの保全活動に 重点的に取り組む NGO団体との懇談会



# マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会

当基金の助成を受けているNGOから、マングローブ林の保全に取り組む団体の代表者の皆さんをお招きし、専門家として40年以上の経験を持つ日本の代表的な研究者、宮城豊彦教授との座談会を企画しました。この懇談会はレストラン「Falaise Rouge」にて、La Vallée de Ferney Conservation Trustの主催で行われました。

懇談会に出席したNGOは、La Vallée de Ferney Conservation Trust、Fondation Ressource et Nature (FORENA)、Reef Conservation Society、Ocean Connect、Pointe d'Esny Sanctuary Foundation、Association pour le Développement Durableです。各代表は宮城教授に自分たちのプロジェクトを紹介し、宮城教授はマングローブの多様な種類や地球にとっての重要性など、豊富な知識を披露しました。



マングローブ林は、ラグーンとその生物多様性を守るだけでなく、海岸浸食や海面上昇を防ぐ役割があります。すでにご存知かもしれませんが、マングローブは海岸・水流沿いに湿地帯を形成する樹木で、気根を持つ樹木であるため、海洋の自然環境でも生育可能です。マングローブ林は多くの水生生物、海洋・沿岸生物の繁殖地となっています。



“懇親会后、当基金代表の山下悟郎は、「懇談会を通じて、私たちはパートナー組織を直接的にサポートするだけでなく、代表者の皆さん同士の議論や交流につなげたいと考えています。著名な研究者である宮城教授のお力もお借りしてチームワークを活性化することで、私どもが支援する各プロジェクトの可能性が広がると確信しています」と話しました。”

Click to navigate

代表挨拶 > Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く > Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催 > マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会 > 4つのNGOとその取り組みを紹介



## 宮城先生のマングローブに関する研究内容を簡単に教えてください。

地形学・地質学的見地から研究しています。マングローブに関する私の研究は1976年、西表島・仲間川流域のマングローブ林とバリントニア・ラセモサ（別の海岸樹種）に関する調査から始まりました。その後は東南アジア、中東、太平洋諸島、オーストラリア、中南米でも研究を重ねたほか、スラウェシ島、スマトラ島のバンダアチエ、ペルシャ湾、メキシコのユカタン半島、太平洋のツバルにおける森林再生プロジェクトにも携わってきました。これまでに参画した研究プロジェクト内容には、急激な海面上昇によるマングローブ林の変化、マングローブ生態系と土壌の有機物蓄積、マングローブ林再生のメカニズム、日本のマングローブ林の変化とその分布、世界のマングローブ林の分布に関する共通データベースの作成などがあります。

## マングローブの保全活動に取り組むモーリシャスのNGOに対して、どのようなご支援を想定されていますか？

モーリシャスには微小潮汐のマングローブの生態系があり、その大半はラグーン内にあります。これらは小さいながらも、非常に価値のある生態系です。保全するためには、これらの小さな森がどのようにして、どのようなメカニズムで形成されているのかを理解することが重要です。また、このような貴重な生態系がこれからどのように進化していくかを理解するための調査も必要です。マングローブの重要性とその保全方法を訴えるために、各プロジェクトは包括的な視点と戦略をもって推し進める必要があるのです。

## 「MOLチャリタブルトラスト」が主催したワークショップや、出席したNGOの代表者との議論について、どのように感じましたか？

モーリシャスでは重要な組織が数多く活動していること、それぞれが独自の動機を持っていることに感銘を受けました。この島で私たちならではの成果をあげるため、彼らと力を合わせ、アイデアを出し合えることを非常に嬉しく思います。

\*東北大学大学院理学研究科博士課程修了、同大学地域構想学科名誉教授。ジオ・カスタマイズ・マッピング(Geo Customize Mapping)代表、株式会社アドバンテクノロジー技師長、日特建設株式会社テクニカルアドバイザー、株式会社日本環境調査研究所研究員。2020年にモーリシャスにマングローブ専門家として派遣された日本専門家支援チームのメンバーでもある。



Click to navigate

代表挨拶>Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く> Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催> マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会 > 4つのNGOとその取り組みを紹介





# 4つのNGOとその取り組みを紹介

Ti rayons  
soleil

Bérengère  
(ベレンジェール)

Bonheur  
Associé aux  
Enfants

Cindy  
(シンディー)

MMCO

Hugues Vitry  
(ユグ・ヴィトリ)

Respect

Arvin  
(アービン)



# Ti rayons soleil – Bérengère (ベレンジエール)

## プロジェクトの進捗はいかがですか？

私たちのプロジェクト「Les Ti Serins nursery school」は順調に進んでいます。施設の改修工事はほぼ完了しており、いよいよ職員の募集と登録を始める段階に移ります。私たちはこの美しい地域で働けることを嬉しく思っています。まずは2つのクラスを開設する予定です。

## 「MOLチャリタブルトラスト」と現地NGOの関わりについてどう思われますか？

スポンサーの皆さまが現地で支援活動に従事して下さることは、本当に名誉なことです。島の南東部に「MOLチャリタブルトラスト」が設立されたことは、プロジェクトマネジメントや教育、海岸保全分野の専門家の支援や指導を必要としているこの地域にとつて、大きなチャンスと言えます。

また、マエブルとその周辺地域への貢献活動に参加できることを嬉しく思っています。プロジェクトの提案募集によって、既存の活動を強化するとともに、ある分野では改善することもできました。

スポンサーとの長期的なパートナーシップは、真の地域発展の実現のために重要であり、「Ti rayons soleil」はこうした精神に則って活動しています。

## プロジェクトを通じて、モーリシャスにどのような貢献をしたいと思いますか？

私たちNGOは、2007年にモーリシャスで設立されて以来、多くのことを学んできました。現在の活動は「質の高い教育を通じた貧困家庭への支援」、「女性の社会進出支援」、そしてもちろん「地域社会の発展」と、主に3つの領域にまたがっています。後者の2つの領域は、社会的公正の上に成り立つ、強靱で公平な地域社会の発展につながるもので、「Ti rayons soleil」の原動力となっています。



# Ti Rayons Soleil

Click to navigate

代表挨拶 > Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く > Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催 > マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会 > **4つのNGOとその取り組みを紹介**



# Bonheur Associé aux Enfants – Cindy (シンディー)

## プロジェクトの進捗はいかがですか？

まずは1学期を無事に終えることができました。主要な食料品や果物、乳製品などの値上がりにもかかわらず、貧困家庭の子どもたちに毎日昼食を提供することができました。しかし、2学期、3学期は次のような理由で、より厳しい状況になることが予想されます。

- 主要食料品の値上がりの常態化
- ガソリン価格の上昇
- 個人からの寄付の減少
- 第1四半期だけ支援してくれたパートナーからの寄付の解約

それでも、子どもたちが毎朝、勉強道具を、そして大切な昼食をカバンに入れて、喜んで学校に通っていることが私たちにとって何よりのやりがいとなっています。

## 「MOLチャリタブルトラスト」と現地NGOの関わりについてどう思われますか？

「MOLチャリタブルトラスト」は、発足して2年足らずの私たちのようなNGOにとって、非常に心強い存在です。設立当初は政府の資金援助や民間企業のCSR活動による支援も受けられず、自分たちの力でやっていくしかなかったため、とても苦労しました。

私たちのようなNGOが日々やりくりできている、ひいてはプロジェクトを遂行できているのは、「MOLチャリタブルトラスト」のおかげだと思います。「MOLチャリタブルトラスト」の支援を通じてNGOが活動することで、この地域は大きく改善されました。もしこの支援がなかったら、資金援助が足りないために活動停止せざるを得ないNGOが多かっただろうと思います。これらすべてのNGOを代表して、「MOLチャリタブルトラスト」に心から感謝申し上げます。

## プロジェクトを通じて、モーリシャスにどのような貢献をしたいと思いますか？

まずは、生活困窮家庭や子どもたちへの支援・援助のさらなる強化です。私たちの夢とモットーは、島のすべての子どもたちが同じ環境で同じ教育を受けられる権利を確立することです。子どもたちが経済的にも精神的にも満たされた幸福な生活を送ることができれば、自身の能力を最大限発揮できるようになると信じているからです。

これが実現すれば、次のような成果が期待できます。

- 島の貧困状態の改善
- 食料・勉強道具不足による学校の欠席率の低減
- 子どもたちの浮浪率・非行率の減少
- 次世代育成を通じたモーリシャスへの貢献



Click to navigate

代表挨拶>Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く> Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催> マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会  
> [4つのNGOとその取り組みを紹介](#)



# MMCO - Hugues Vitry (ユーグ・ヴィトリー)

## プロジェクトの進捗はいかがですか？

MMCOはすでにFacebookやInstagramなどのソーシャルネットワークで募集を開始しており、50人の候補者を見つける必要がありました。

現在までに198件の応募があり、医学的・水泳技能的見地、居住地に応じて、社会的立場の弱い方を優先して一次選考を行いました。

5月中旬までには、第一陣の20名を対象に、運用開始予定です。

## 「MOLチャリタブルトラスト」と現地NGOの関わりについてどう思われますか？

モーリシャス沖での船の座礁とその後の出来事や規制を受けた後、現地の人々は(誤解もあるでしょうが)、当局に対して不満を感じていました。当局側も手続きに追われたり、広い視野を持って問題の対処に当たらなければならなかったりという事情があったのだと思います。NGOへの支援は、特に地域の根底にある問題に焦点を置いています。これは「MOLチャリタブルトラスト」の素晴らしい取り組みです。国土が小さいので、島全体への支援も可能だったのではないかと思います。

## プロジェクトを通じて、モーリシャスにどのような貢献をしたいと思いますか？

私たちはこのプロジェクトを通して、自分たちを取り巻く環境と海の世界について、地域の人たちに意識を高めてもらうよう努力しています。自分が知っているもの、愛しているものしか、効果的に保護することはできないからです。



Click to navigate

代表挨拶 > Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く > Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催 > マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会 > [4つのNGOとその取り組みを紹介](#)



# RESPECT - Arvin (アービン)

## プロジェクトの進捗はいかがですか？

私たちのプロジェクトは、有機農法のトレーニングと温室設置の2つのフェーズで構成されています。トレーニングは昨年12月、今年1月頃から開始し、現在も継続中です。現在、マエポールでは81人の受益者に対して、持続可能な農業のトレーニングを行っています。資金の援助を受けた私たちは、すぐにマーレタバック(Mare-Tabac)で温室の建設を開始しました。ただ、この建設では現地の労働者を雇用するため、若干の労働問題が発生した上、資材の高騰による追加費用も発生しました。こうした状況に鑑み、予算を再調整した結果、温室の完成は5月末から6月上旬となる見込みです。6月中旬には実習（現在は講義に重点を置いています）を開始する予定ですので、良いタイミングだと思います。

## 「MOLチャリタブルトラスト」と現地NGOの関わりについてどう思われますか？

現在、「MOLチャリタブルトラスト」の取り組みの成果が現れていると思います。座礁事故で影響を受けた方々のために多くの取り組みが行われており、昨年の引き渡しの際には、多くの関連団体の方々とお会いしました。これだけ多くの人を巻き込んで、「MOLチャリタブルトラスト」はよくやってくださっていると思います。私たちとしても、このような資金的援助を受けてプロジェクトを実施できることを心より嬉しく思っています。

## プロジェクトを通じて、モーリシャスにどのような貢献をしたいですか？

このトレーニングプロジェクトを通じて、研修生が今まで以上に果物や野菜の温室栽培に関心を向けるようになり、若い人たちが陸での生産活動への関与を深めるきっかけになればと願っています。これまで南東地域の住民が伝統的に陸地よりも海に依存してきたことを知ることが重要です。この地域では、農業生産が本当に不足しているのです。私たちは、住民が食料を自給できるように、そして余った食料を販売できるように手助けすることを第一に掲げています。この考えに基づき、将来的にはアクアポニックスのトレーニングプロジェクトを立ち上げたいと考えています。



Click to navigate

代表挨拶>Darmen Ellaya (ダーメン・エラヤ)氏に聞く> Eco-Sudのアグロエコロジーセンターでワークショップを開催> マングローブの保全活動に重点的に取り組むNGO団体との懇談会  
> [4つのNGOとその取り組みを紹介](#)





#### Contact us

Address: Level 4, Alexander House, 35 Cybercity, Ebene 72201, Mauritius

Phone : + 230 468-6257    Email : [mol\\_charitable\\_trust@molgroup.com](mailto:mol_charitable_trust@molgroup.com)